

南極観測隊経験者にインタビュー



おばま ひろみ 小濱 広美さん

参加した観測隊

- ・第52夏隊
[庶務担当]

プロフィール

- ・鹿児島県鹿屋市出身
- 文部科学事務官（香川大学医学部採用）
- 1996年1月 新居浜工業高等専門学校（愛媛県）転任
- 2007年4月 国立極地研究所 転任 現在に至る
（※法人化のため、現在は「国家公務員」ではありません。）

南極観測隊に参加したきっかけは？南極ではどんなおしごとをしたのですか？

愛媛県在住時、自分の可能性を試したいと、上司に転任を申し出た際、南極行きを進められました。1も2もなく、即「行きます！」と返事をしたところ、上司にすぐに動いていただき、現在があります。

南極では、庶務・情報発信担当隊員として、隊長補佐、観測隊の運営補助、しらせ（海上自衛隊）との連絡調整、日本への情報発信、日本との連絡調整を行いました。「庶務」なので、いわゆる「事務（何でも）屋」です。



【「しらせ」内。甲板に出る時はいつも情報発信担当としてカメラ持参。】



【バギーで昭和基地内を移動。中間食（おやつ）を配ったり、各所のお手伝い。】

南極で印象に残った事はなんですか？

他の隊員達は自身のテクニックで観測隊員になったのに対し、自分は何のテクニックもありません。また、その隊員達は、そのテクニックを南極で活かせば仕事が成り立つのですが、こちら、それが無い「事務屋」で観測隊全体を掌握し、運営しなければならないため、とにかく忙しかった！！一番の印象は「忙しかった」です。

そんな中で、帰国直前に、南極大陸の「雪鳥沢」に1泊、野外調査に参加させていただいた時、昭和基地での喧噪から離れ、露岩域を歩いていて、音が全く無い世界に遭遇した時、とても衝撃を受けた事が印象に残っています。



【建築現場（コンクリート生成）のお手伝い中。その現場で隊員に「よしよし、がんばれ〜」と落書きされました。】

子ども達へメッセージをお願いします！

月並みですが、今、しっかり勉強しておきましょう。大人になってから、これって役に立つんだ！と必ず、気がつきます。そして、好奇心とチャレンジ精神を持ち続けていれば、勝手に自分のやりたい方向に進んでいきますよ。